



インテリアコーディネーター

**インテリアの現場では必須といえる資格。
取得によりお客様の信頼が得られる**

編集長の注目ポイント インテリアを中心に住宅の構造や製図、資材の手配、施工といった工程全般などについて、インテリア業界に関わる知識が広く問われる資格なので、未経験者が自信を持って業界への転身を

めざすには最適です。また、資格取得後は定期的に行われる協会主催のセミナーや展示会に参加できるため、最新の動向を無理なくキャッチしたり人脈を広げたりすることもでき、スペシャリストとして長く活躍していくにも効果的といえるでしょう。

- 主催団体
- 受験資格
- 目安となる取得期間

どんな資格? 家具や照明、カーテンなどをコーディネートし、住む人のニーズに応じた住空間を作るスペシャリストの資格。インテリアと住宅構造の知識を駆使してプランを作り、動線や雰囲気、予算といったクライアントの要望を叶える。

どう学ぶ? 試験は合格率24.5%。2次試験のプレゼンは課題に沿ってインテリア計画を立てて図面に起こすもので、製図の知識も求められる。合格者の約3割は業界未経験者で、スクールなどでしっかりした対策をすれば十分合格がめざせる。

どう稼ぐ? 有資格者は目黒さんのように独立・フリーのインテリアコーディネーターとして、モデルルームや住宅・店舗の内装を手掛けるほか、モデルルームなどでの内装提案、家具や雑貨のショップスタッフとして専門性を発揮している。



目黒さんの仕事ぶりに満足したお客様が、新たなお客様を紹介してくれるなど、人との縁から仕事が広がっているという。

「あるとき女性インテリアコーディネーターの仕事を目にする機会があったのですが、その姿がとても素敵だったんです。仕事柄、インテリアを見にイタリアへ行く機会もあり、次第に『私も資格を取って、自分でインテリアをコーディネートしてみたいなあ』と思うようになりました」

30歳のとき、仕事で出会った人脈から簡単なインテリアコーディネーターや製図の仕事を頼まれるようになり、目黒さんはフリーになることを決意。同時に、資格を取ろうと勉強を始めた。

27歳から海外インテリアの輸入代理店で働いていたという、目黒さん。住宅展示場やモデルルームにインテリアを卸したり、インテリアコーディネーターの描いた図面をCADで製図したりしていたという。

**住宅展示場などの
コーディネートに憧れ
資格取得を決意**

「資格がなくともインテリアの仕事はできますが、一方で業界では資格は『持っている、当然』と考えられています。自信を持って仕事をするためにも、必要だと思いました」

**資格取得によって
自信を持ってプランを
提案できるようになりました。**

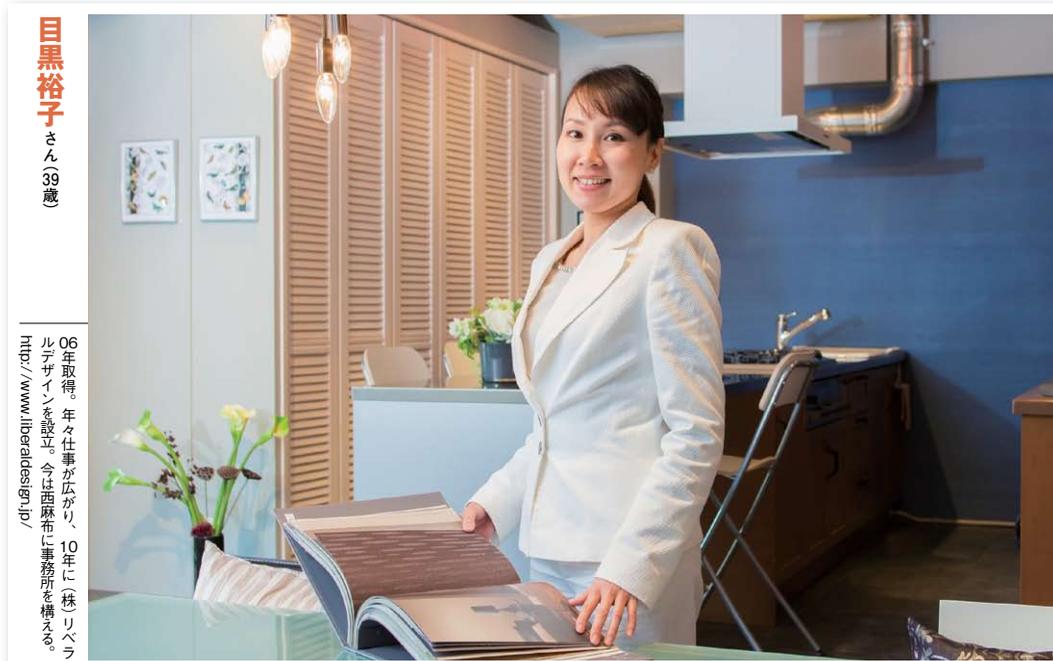
目黒さんは参考書や過去問題集を何冊も購入し、仕事を終えた夜に独学で勉強したという。そして1年後、31歳で試験に合格する。

「私の場合、前職のときにCADで製図をしたり、現場を見たりする機会があったので独学でも何とかなったのでしよう。未経験の方が資格をめざすなら、スクールなどで学んだほうがいいと思います」

資格取得後、内装設計も手がけるようになり、任される仕事の規模が大きくなっていったという。2010年には会社を設立。今はマンションや住宅のリフォームやモデルルームのコーディネート、クリニックの内装などで幅広く活躍している。

「資格がなかったときと比べると、自信を持ってプランを提案できるようになりました。自分のコーディネートによって、お客様が笑顔になったり、モデルルームの契約数が動いたりするのが、本当にうれしく、大きなやりがいです」

**お客様の要望はもちろん、
予算やスケジュールなども
考えたプランを、自信を持って
提案できるようになりました。**



目黒裕子さん(39歳)

06年取得、年々仕事が広がり、10年に「株リベラルデザイン」を設立。今は西麻布に事務所を構える。
<http://www.liberaldesign.jp/>